

NEWS

Kuwana City Medical Center

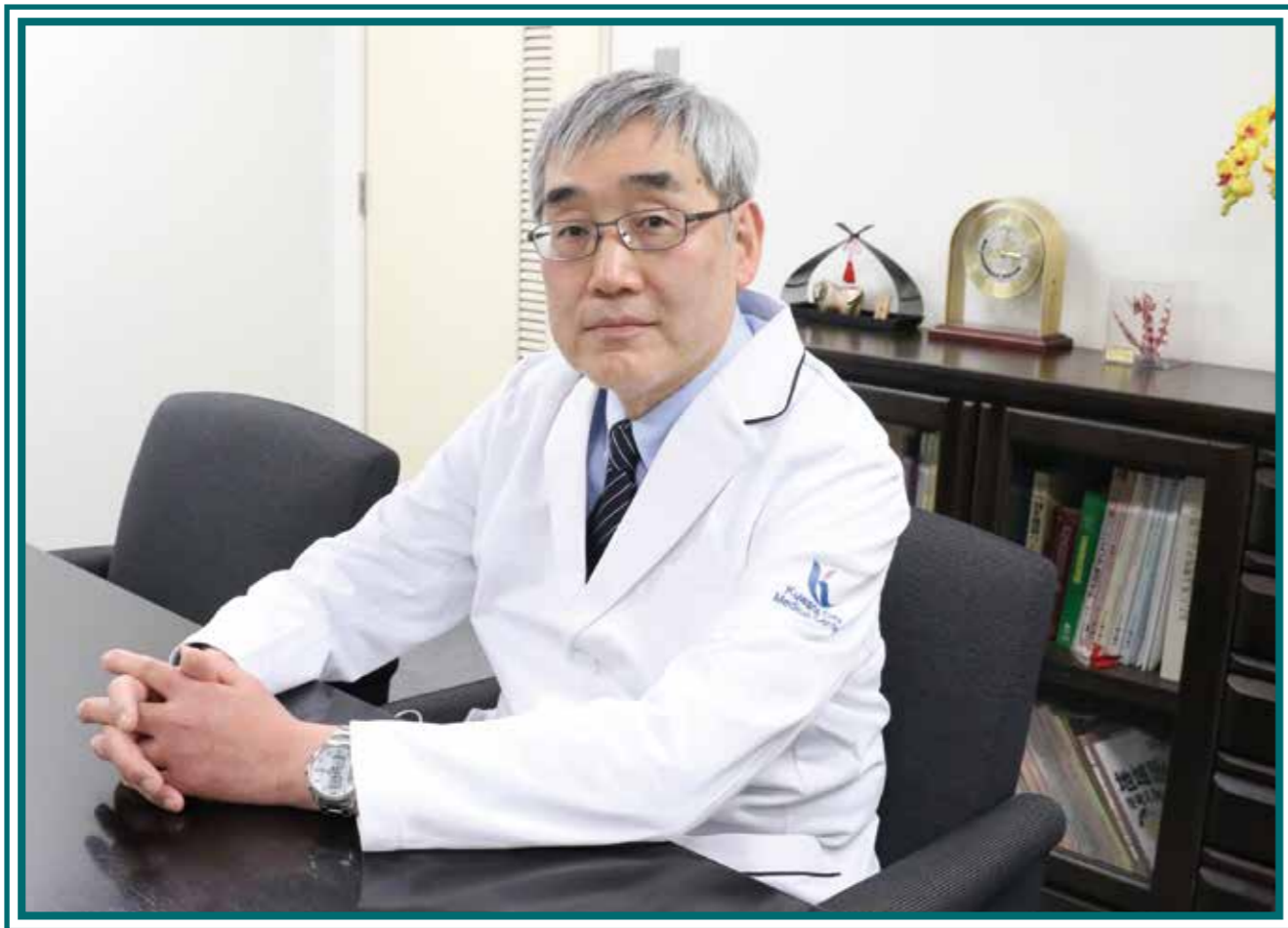
vol.61

循環器内科

New hospital of East, West and South medical centers

2018年4月桑名東・西・南医療センターが1つになり新病院が誕生しました。

Take Free



新病院長就任あいさつ

4月1日付けで、副病院長の登内医師が病院長に就任いたしました。

4月から病院長を拝命いたしました登内です。
 コロナ禍において、桑員地区の住民の方々、桑名市、企業などに
 様々なご支援をいただき、誠にありがとうございます。おかげ様で
 当院はクラスターを惹起することなく、通常診療を継続できていま
 す。今後も診療所、病院との連携を堅持しながら急性期医療を一
 歩でも前進させていきたいと考えております。
 さらなるご支援何卒よろしくお願い申し上げます。

病院長 登内 仁

特集・循環器内科



私たちの体は、心臓を中心に血液が全身をめぐるっており、生きるために必要な酸素や栄養を運んでいます。その血液の流れを「循環」といい、血液を送り出す心臓と血液の通り道である血管の疾患を診ているのが「循環器内科」です。

当センターでは、様々な心臓疾患に対して、専門的な診療をおこなっています。また、急性心筋梗塞などの緊急時の体制も整え、患者さんの早期治療と社会復帰のためのリハビリテーションにも力を入れています。ここでは、循環器内科で扱う主な疾患と治療について紹介します。

循環器内科の主な疾患

①心臓疾患

- ・虚血性心疾患
- ・弁膜症
- ・不整脈

②大動脈疾患

- ・大動脈瘤
- ・大動脈解離
- ・大動脈炎

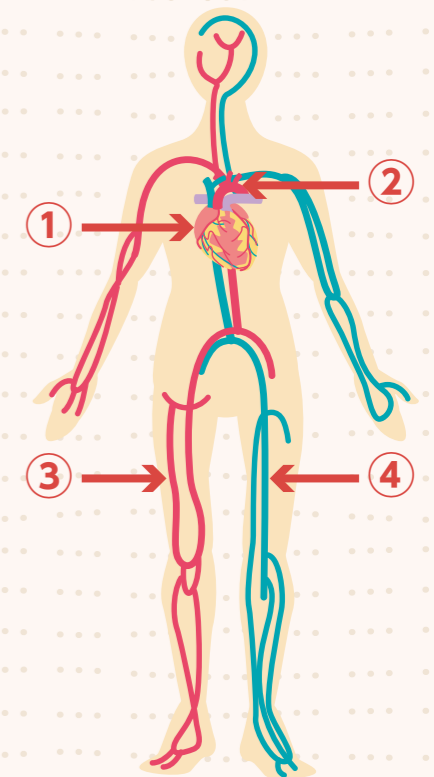
③末梢動脈

- ・閉塞性動脈硬化症

④静脈疾患

- ・下肢静脈瘤
- ・深部静脈血栓症
(エコノミークラス症候群)

⑤高血圧症



📌 高血圧症

循環器内科で扱う疾患において皆さんにも馴染みのある高血圧は代表的な生活習慣病の1つです。2019年の国民健康・栄養調査によれば、65歳以上の高齢者の65%以上は高血圧と言われています。特に高齢化社会の日本において高血圧は大きな問題の1つで、放っておくと動脈硬化により脳梗塞や心筋梗塞・心不全、腎不全の原因になります。薬で血圧を下げる事ももちろん重要ですが、それだけでなく生活習慣の改善も大事です。食事は塩分を控え(1日6g以下)、またウォーキングなど適度な運動をすることで血圧の改善が期待できます。コロナの影響で外出を控える方も多いかと思いますが、適度な距離を保った上での運動は重要となります。



飯尾滉太郎医師

📌 弁膜症

高齢者で重要な循環器疾患にもう1つ弁膜症があります。心臓には4つの逆流防止弁があり、全身に送る血流が逆流しないようになっておりますが、この弁に異常があるのが弁膜症です。更に弁が硬くなり血液が流れづらくなっているのを狭窄症、弁が緩んで逆流してしまうのを閉鎖不全症といいます。これらを放置していると重大な心不全の原因となり、また弁の物理的な問題であるため薬で治す事ができません。弁膜症の治療はこれまでは開胸手術しかありませんでしたが、一部の弁膜症ではカテーテルを使った低侵襲な手術も徐々に行われるようになってきています。体力的に手術が難しいと諦めていたような症例でも適応となる場合がありますので、まずは相談してみてください。

📌 虚血性心疾患

厚生労働省の統計によると心疾患は悪性新生物に次いで日本人の死因の第2位。2019年度の死亡数は約20万8千人で死亡数全体の15%を占めています。心疾患には弁膜症や不整脈、心不全なども含まれますが主たるものに虚血性心疾患があります。

虚血性心疾患とは、心臓に栄養や酸素を送る血管(冠動脈)が狭くなったり閉塞したりすることで心筋に血液がいかなくなることで起こる病気です。狭心症は動脈硬化により冠動脈が狭くなり、運動などで心筋への血流が不足すると胸の痛みや圧迫感などを生じます。心筋梗塞は血管内のプラーク(脂質などのかたまり)が破れたりすることで出来た血栓により心筋が壊死してしまい、心不全や致死性不整脈などを起こしやすくなります。

心筋梗塞は早期受診早期治療。今まで感じたことのない冷汗を伴う胸痛(胸の圧迫感や締め付け感、あごや肩、みぞおちなどの痛みの場合もあります)が出現した際にはかかりつけ医への相談、救急要請などによる早期受診が大切です。

当センターでは24時間365日緊急で冠動脈治療(バルーン拡張やステント留置術など)が出来る体制を整え、かかりつけの先生とも連携しています。2020年よりロータブレード(ダイヤモンドのついたバーで硬い病変を削る治療)も行えるようになりました。

症状が持続する場合のほか、安静で改善する場合も早めのご相談・受診をお勧めします。



大村崇医師



ロータブレード
ホストンサイエンティフィックHPより

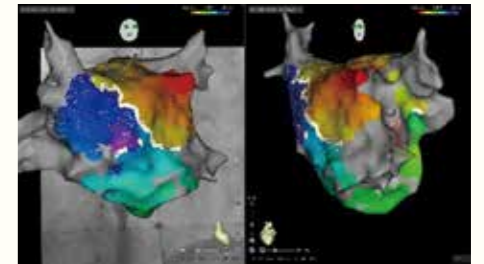
📌 不整脈・アブレーション・ペースメーカー

動悸、息切れ、たちくらみなどの症状でお困りではありませんか?もしかすると不整脈が原因かもしれません。不整脈とは、心臓を伝える電気信号に異常が生じることにより、脈が速くなったり、遅くなったり、不規則になったりする病気です。一概に不整脈と言ってもたくさんの種類があり、治療を要しない予後良好なものから、突然死を来す致命的なものまで様々です。加齢、過労、精神的ストレス、飲酒、喫煙、高血圧、甲状腺機能異常、器質的心疾患など原因は多岐にわたります。

生活習慣病が増える現代社会において、社会的にも問題となっている不整脈の一つに「心房細動しんぼうさいどう」があります。心房細動は脈の間隔が不規則となる不整脈で、動悸や息切れの原因となります。本邦における推定患者数は約100万人とも言われており、高齢化に伴い、今後さらに増加が予想されます。直ちに命に関わる不整脈ではありませんが、放置しておく心臓の中で形成された血栓(血液の塊)が脳血管を閉塞して脳梗塞を発症し、麻痺や寝たきりなどの原因となります。また心臓のポンプ機能が低下することにより心不全を発症し、死亡率も増加することが知られています。認知症の発症率が増加するといった報告もみとめます。

治療方法としては、抗凝固薬(血液をサラサラにする薬)による脳梗塞予防、抗不整脈薬、電気ショック、ペースメーカー植込み術などが挙げられますが、いずれも対症療法に過ぎません。根治療法としては、昨今、カテーテルアブレーションという治療方法が脚光を浴びています。先端から高周波を発生するカテーテルを足の付け根から心臓の中に挿入して、左心房と肺静脈の接合部を焼灼することにより不整脈の根治を目指します。不整脈全体では年間約10万人の患者さんがこの手術を受けていると報告されています。当院でも最新型の3次元マッピングシステムを用いてアブレーション治療を行っております。また従来の方法よりも短時間で治療可能な、クライオバルーンを用いた冷凍アブレーションも積極的に行ってまいります。

不整脈の診断には動悸発作時の心電図を記録することが必要不可欠です。心房細動の怖い点として、全く無症状の患者様が存在し、重篤な脳梗塞や心不全を起こしてから、心房細動が発見されることも稀ではありません。当院では24時間心電図の他に、携帯型心電計の貸し出しや挿入型心電図モニタなども利用して不整脈の精密検査を行っております。最近では市販の腕時計型端末でも簡易的心電図を記録できるようになりました。発作頻度が少ない患者様の場合、このような機材を利用するのもひとつです。



3次元マッピングシステムを用いて描いた左心房および肺静脈



クライオバルーンによる経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術

アブレーション風景

末梢動脈疾患

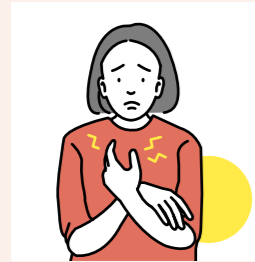
心臓に栄養や酸素を送る冠動脈の動脈硬化により起きる病気が狭心症・心筋梗塞ですが、それ以外の動脈(末梢動脈といいます)にも同様に動脈硬化が起こります。特に足の動脈(下肢動脈)の動脈硬化が進むことにより閉塞や狭窄をきたし、様々な症状を起こす病気を末梢動脈疾患と呼んでいます。PADと表現することもあります。

通常はゆっくりと進行しますので、症状に気付かないことも珍しくありません。初期段階では「足が冷たい」「しびれる」といった症状が多く、進行すると一定距離を歩くとふくらはぎが痛んで歩けなくなり、休息すると症状が改善して再び歩けるようになります。これを間欠性跛行(はこう)と呼びます。さらに進行すると安静にしても足の痛みが続くようになります。この時期よりチアノーゼが出現して、足の先端が暗紫色に変色してきます。さらに重症になると足に潰瘍を形成したり、壊死した部分が真っ黒に変色したりします。病気の程度は症状に応じて4つに分けられ、Fontain(フォンテイン)分類と呼ばれています。I度が最も軽症で、IV度が最も重症です。III度以上を重症虚血肢といい、カテーテル治療やバイパス手術などの治療を行わないと、高い確率で足の切断術が必要になります。



今井裕一 医師

Fontain 分類画像



- 無症状
- 手足が冷たい
- 手足がしびれる
- 足先が青白い



- 一定距離を歩くと、主に下半身(ふくらはぎ、太腿)などが痛む(数分で回復)
- 階段を上るのがつらい



- 安静にしても足が痛む



- 手足に治りにくい潰瘍ができる
- 壊死した部分が真っ黒になる

診断をするために行う検査は次の順に行います。

- 1.ABI検査** PADが疑われた場合にまず行う検査で、足関節で測定した血圧と上腕で測定した血圧を比べます。血圧測定と同じ感覚で出来る検査ですので、患者さんの負担も少なく、簡便にPADの有無を知ることができます。
- 2.CT・MRI** ABI検査で異常があればCTやMRIで血管のどの部分が狭窄・閉塞しているのかを明らかにします。
- 3.血管造影検査** CT・MRIまで行うことでほぼ確定診断が可能ですが、治療方針を決めるためには血管造影が必要となります。通常は入院が必要で、冠動脈造影も同時に行うことができ、合併することが多い狭心症や心筋梗塞の検査も一緒に行えます。カテーテル治療やバイパス手術など血行再建術を行う場合には必須の検査です。

治療方法は主に下記のものがあげられます。

- 1.運動療法** 簡単に言うと「歩く」ことです。中等症以下では初期治療として有効であり、歩くことで痛みを感じますが、痛いからと言って歩かないのではなく、痛むまで歩くことが重要です。
- 2.薬物療法** いくつかの薬剤が間欠性跛行に有効で、高血圧や脂質異常症・糖尿病の治療も、将来の心筋梗塞や脳梗塞を予防する上で重要です。

3.血行再建術

間欠性跛行を有する患者さん(フォンテイン分類II度)で、運動療法や薬物療法で効果に乏しい場合に適応となります。フォンテイン分類III度以上の重症虚血肢の状態では早期より行います。血管内治療(カテーテル治療)とバイパス手術があり、どちらを選択するかは、血管の状態や全身状態などにより判断します。



A)血管内治療(カテーテル治療) 閉塞や狭窄している血管をバルーン(風船のついた)カテーテルで拡張したり、スtentと呼ばれる網目状になった金属製の筒を植え込む治療です。

B)バイパス手術 閉塞している血管の前後を人工血管や自家静脈で繋ぐ手術です。

PADは足の血管に起こる動脈硬化ですが、足の症状を治すだけで良いものではありません。あくまでも全身の動脈硬化の一つですので、足に動脈硬化がある場合には心臓や脳などの重要な臓器の動脈硬化も進行している可能性があります。足の動脈硬化を「きっかけ」として、全身の動脈硬化を予防することは健康寿命を延ばすことにもつながるので、当院ではPADの診断・治療を積極的に行っておりますので、症状が当てはまる方は気軽に受診して下さい。

肺高血圧

肺へ血液を送る動脈が様々な原因で狭くなる、あるいは詰まることで肺動脈の圧が高くなる疾患です。症状は、徐々に進行する息切れ、胸痛、進行すると下肢から始まり全身のむくみを生じます。原因により治療法が異なりますが、最近では多くの有効な治療薬が使用可能となり、生命予後も大幅に改善しています。早く診断を付けて治療を始めることが重要です。



山田典一 医師

静脈血栓塞栓症

エコノミークラス症候群の名前でも知られています。脚の静脈に血の塊(血栓)を生じたのが**深部静脈血栓症**で、片方の脚が腫れたり痛んだりします。その血栓がはがれて血流にのると肺に流れ込み動脈を閉塞し**肺血栓塞栓症**を生じます。病院内や避難所などで起こりやすいことが知られています。症状は突然起こる息苦しさ、息切れ、胸痛が多いです。治療は、薬で血栓を溶かしたり、血栓が流れていかないようお腹の血管に網を張ったりします(下大静脈フィルター)。また、カテーテルや手術で治療することもあります。



大動脈疾患

大動脈瘤、大動脈解離は動脈の中で一番太い大動脈という血管に異常が起きることによって突然死の原因となる病気のひとつです。

大動脈は通常胸部で3cm、腹部で2cmとされていますが、これが正常より1.5倍を超えてこぶのように大きくなっているときに大動脈瘤と診断されます。レントゲン、CTなどの画像検査でたまたま発見されることが多いです。このこぶが大きくなったときに問題となるのが大動脈瘤破裂になります。破裂した際は突然の大出血をおこし、強烈な胸痛、背部痛、腹痛、腰痛などが出現しショック状態に至ります。

大動脈解離は突然大動脈に亀裂が生じることによって起こります。大動脈は3層構造(内膜、中膜、外膜)で出来ていますが、内膜と中膜の間が裂けることによって突然の胸部、背部の激痛に襲われ、命に関わります。

どちらも突然の激しい胸、背中、腰の痛みで発症し、突然死の原因となる恐ろしい病気です。早期診断できれば救命の可能性が高くなります。突然の胸背部痛、腹痛を自覚された際には躊躇せずに救急車を呼んでください。当院スタッフが専門的な治療が行えるように昼夜問わず対応を行っています。



柳澤将史医師



大動脈瘤・大動脈解離の図

心不全

心臓は全身の臓器に酸素や栄養を含んだ血液を送るポンプの役割をしています。心不全とは、なんらかの心機能の障害でポンプの役割が十分に果たせなくなった状態のことをいいます。心不全に至るには、原因となる病気が多数存在します。原因にあげられる疾患には、虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、不整脈、高血圧などがあり、さらには貧血、甲状腺などのホルモンの異常、糖尿病、薬やアルコールなど、一見、心臓とは関係のないようなものも原因となることがあります。これらの病気により、心臓のポンプ機能が破綻してしまうと浮腫や息切れなどの症状が出現します。

初期段階では自覚症状に乏しく、高血圧や動脈硬化などが心疾患リスク因子として存在します。その後、虚血性心疾患や弁膜症などを発症していきます。そのような疾患が徐々に心臓に負担をかけ、心不全の発症へとつながります。

まずは、早期から生活習慣の改善や原因となる疾患の治療を行い、心不全の発症を予防することが大切です。また心不全を発症した後も、再発を予防していくことが重要です。当センターには心不全療養指導士の資格を持った看護師が1名在籍しています。



岡島春花医師

心臓リハビリ

心臓リハビリテーション(心臓リハビリ)とは、心筋梗塞、心不全、開心術後、大血管術後、末梢動脈疾患の方を対象とした総合的活動プログラムです。体力を回復し、快適な生活や社会復帰、再発や再入院を予防することを目的として行います。内容には運動療法、生活指導(食事、服薬、禁煙)・相談(カウンセリング)などを含みます。心臓リハビリにより、生活の質が改善し、毎日をより快適に過ごすことができるようになります。

心臓病は生活の中で進行、増悪すると言われています。心臓病入院を予防することは患者さんやご家族の生活を守ることに繋がります。まずは、自分の病気について知っていただき、どのように病気と向き合ったらよいかを一緒に考えていきます。



外来リハビリ風景



血圧指導風景



心臓リハビリチーム

With you 医療人



【専門・認定看護師】第2弾！

当センターでは、専門・認定看護師11名が活躍しています。
 専門・認定看護師とは、高度化し専門分化が進む医療現場において、水準の高い看護を実践できると認められた看護師のことです。専門看護師は患者だけでなく、患者の家族や地域との連携や看護師教育も行います。
 患者・家族により良い看護を提供できるよう、専門看護分野・認定看護分野ごとの専門性を発揮しながら、専門看護師は「実践・相談・調整・倫理関係・教育・研究」の6つの役割、認定看護師は「実践・指導・相談」の3つの役割を果たして、看護の質向上に努めています。
 当院で働く専門・認定看護師について、前号に引き続き本号でも紹介します。

★ストーマ→人工肛門・人工膀胱 のことを指します。



感染管理認定看護師

伊藤 和恵

活動内容

- 院内ラウンドによる感染対策上の問題把握と日常的な感染対策の実践指導。
- 感染症や薬剤耐性菌の監視と発生時の対応。
- 職員への研修会の開催。
- 感染対策マニュアルの作成・改訂。
- 職員の職業感染防止対策の実施。
- 院内外からの感染対策に関する相談対応。
- 感染対策に関する地域との連携。

認定看護師を志した理由

感染対策チームへの参加をきっかけに勉強をする中で、現場で行っている感染対策に疑問を感じるようになり、「感染対策をすることとは何かを追求したいと考え認定看護師を目指しました。「感染しない・させない・拡げない」ために、現場が実践できる感染対策を目標に組織横断的に活動をしています。



感染管理認定看護師

佐藤 友美子

活動内容

- 現場での感染対策対応。

認定看護師を志した理由

当時の上司から感染対策リンクスタッフに任命されたことがご縁でした。その上司は私を研修に誘い、看護研究をさせ、感染対策の面白さを教えてくれました。それから、手術部位感染【SSI(Surgical Site Infection)】に興味をもちました。苦手だった細菌やウイルスの特性を知ると楽しくなり、対策を考えて実践してみると感染症で苦しむ患者が減ったことに達成感を覚え、感染管理認定看護師に挑戦しようと思いました。

活動内容

- ストーマを装着されている患者さんのサポート。
- 褥瘡回診。
- 褥瘡対策委員会の企画・運営。
- 院内、院外のストーマ、褥瘡(創)、スキンケアなどの研修会実施。
- 他院・他施設・訪問看護師さんへの相談対応、ケア指導、往診。

認定看護師を志した理由

消化器外科病棟に勤務していた時に、人工肛門造設患者さんや多くの術後患者さんに関わりました。その時、患者指導や創処置を行い、知識や技術のレベルアップが必要と感じ、皮膚・排泄ケア認定看護師になりました。



皮膚・排泄ケア認定看護師

城田 朋美



皮膚・排泄ケア認定看護師

柴田 若奈

活動内容

- 主に入院患者さんの排泄ケア、褥瘡ケア、ストーマケアに関する実践、指導、相談対応。
- 排泄ケアチームでのラウンド。

認定看護師を志した理由

学生の時にストーマの患者さんと出会ったことがきっかけで、魅了され、決心しました。ストーマ・排泄ケアの楽しさを伝えることができれば、と思っています。

活動内容

- 脳卒中重篤化回避のためのモニタリングとケアの実践、指導
- 脳卒中患者の機能障害に対し、活動性維持・促進のため適切な早期リハビリテーション看護の実践、指導、相談。
- 院内発症脳卒中对策チームの企画、運営および研修。

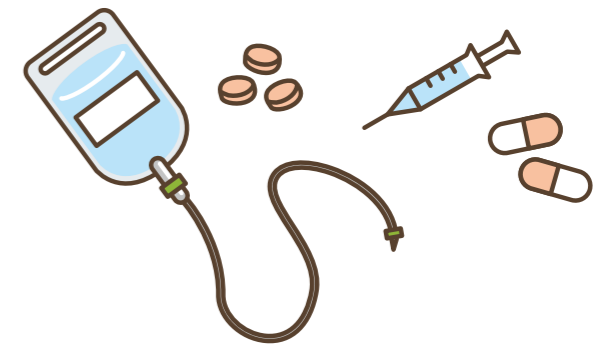
認定看護師を志した理由

脳卒中は発症直後から重篤化の予防を行うことが重要であり、1分1秒でも早い対応が求められます。また同時に社会復帰を視野に入れたケアが必要になります。桑名で脳の血管内治療が行われるようになったことで、特にその必要性を感じ、看護師にも脳卒中に対する判断力・看護力が重要であることを再認識する機会となりました。根拠をもってケアを行い、患者さん・家族をサポートでき、また脳卒中についての情報を発信していけるような看護師になりたいと思い、認定看護師を目指しました。



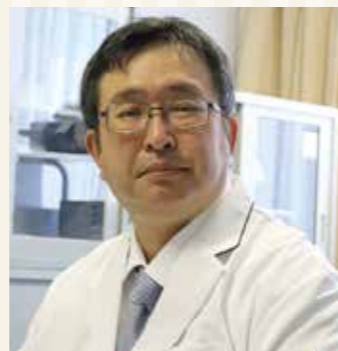
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

白井 美佳



免疫力とワクチン 「新型コロナウイルスワクチンについて」

感染対策委員長
副病院長
石田 聡 医師



人間には病気を自然に治す力があります。これを病気(疫病)からまぬがれる(免れる)力として「免疫力」と呼びます。免疫力には生まれつき備わっているもの(自然免疫)と成長とともに身につけていくもの(獲得免疫)があります。皆さんも良くご存知の「はしかに子供の頃にかかると再度かからなくなる」とは獲得免疫による予防効果です。

この免疫力を、人工的に身につける方法がワクチンです。これまで我が国において使用されていたワクチンはウイルスの一部のタンパクを人体に投与し、それに対して免疫を作る仕組みでした。新型コロナウイルスワクチンはmRNA(メッセンジャーRNA)ワクチンという新しい仕組みです。mRNAワクチンでは、ウイルスのタンパク質をつくるもとになる遺伝情報(mRNA)の一部を注射します。体内で、この情報をもとに、ウイルスのタンパク質の一部がつくられ、ウイルス感染を予防する物質(抗体など)ができることで

「コロナウイルスに対する免疫」ができます。「ウイルスの遺伝情報を人体に投与するのが心配」との声も聞かれますが、mRNAは、数分から数日といった時間の経過とともに分解されていきます。また、ワクチンのmRNAは、人の遺伝情報(DNA)に組み込まれることはありません。下記にある三重県や厚生労働省のサイトのワクチン情報をご覧ください。接種する利益と副作用のリスクを理解し、納得した上で多くの方にワクチン接種を受けていただきたいと思います



新型コロナウイルスワクチン用冷凍庫

みえ新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイト

<https://covid19-vaccine.mie.jp>

厚生労働省ホームページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00218.html

Pick UP

主な取り組み

乳腺外科

乳腺外科部長 小西 尚巳 医師

乳腺外科では、乳がんのみならず、良性腫瘍や乳腺症など、乳腺の様々な病気の診断と治療を行っています。乳がんは近年増加傾向で、女性では最も罹患率の高いがんであり、40歳代から50歳代の発症が多いことが特徴ですが、早期に発見し適切に治療すれば、ほかのがんに比べると治療率が高い病気でもあります。当センターでは、乳がん診療ガイドラインに沿った診療を行っており、乳がん検診、診断、手術、薬物療法、放射線療法、緩和医療などを一貫して行うことが可能です。近隣地域の診療所や病院とも連携し、患者様によりよい医療を提供できるよう努めています。



乳がん検診を受けましょう！

乳がんの診療で、第一に大切なことは、定期検診を受けていただくことです。2年ごとにマンモグラフィ検診を受けていただくことで、乳がんの早期発見が可能となります。もし乳がんが発見されたとしても、検診で発見された乳がん患者さんは、症状が出てから治療を開始した乳がん患者さんに比べ、治療する可能性が高く、部分切除できる可能性や抗がん剤治療を受けなくて済む可能性が高くなります。

当センターには、外来とは別に健診センターが併設されており、様々な病気の健診を行っています。患者様のデータは一括管理されているため、健診センターで再検査となった時にも、すぐに病院の外来で対応が可能です。乳がんのマンモグラフィ検診では、以前の画像との比較が重要ですので、検診を受けていく病院を決めて、同じ条件で画像を残しておく必要があります。当センターでは、山本総合病院、桑名市民病院、東医療センター、西医療センターでの画像も保存されていますので、以前に健診を受けられた方は、引き続き当センターで受けさせていただくことをお勧めします。



マンモグラフィ装置

乳がんの診断や治療は・・・

乳がんの診断では、マンモグラフィ、乳腺エコー、細胞診、針生検、エコーガイド下吸引式組織生検、ステレオガイド下マンモトーム生検、乳腺MRI、乳管造影などを行っています。病理医が常勤しており、迅速な診断が可能です。

手術療法では、乳房全切除術や乳房温存療法を行います。乳房全切除術後の同時再建や温存療法後の放射線治療も当センターで行っています。腋窩リンパ節郭清を省略できるセンチネルリンパ節生検も行っており、正診率(正しく診断する確率)の高い、放射性同位元素と色素法を併用した方法をとっています。

化学療法が必要な方には、外来化学療法室が完備されており、専任のスタッフにより化学療法を行っています。当センターでは、がん化学療法専門薬剤師やがん看護専門看護師、がん化学療法認定看護師も常駐しており、安全性に十分配慮した薬物療法を行っています。

精義小学校の生徒の皆さんからメッセージをいただきました

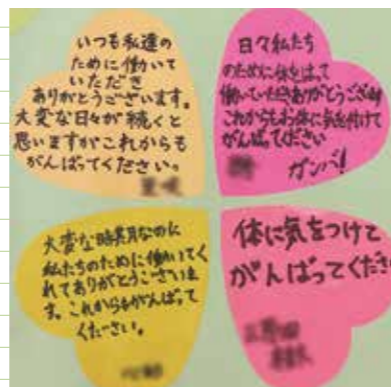
2月1日桑名市立精義小学校の皆さんから、当センタースタッフに対し、素敵な応援メッセージをいただきました。

6年生の人権総合学習の中で、「こんな時こそいつもお世話になっている地域の方々へ何か恩返しができないか」との声があがり、全学年で応援メッセージを書いて下さったそうです。

とてもカラフルで可愛いメッセージに温かい気持ちになりました。

いただいたメッセージは外来棟3階のエレベーター前に掲示しております。

今後も引き続き、地域医療に貢献してまいります。ありがとうございました。



メッセージ一部拡大



卓球カフェ

2月24日横浜市で開催されましたSB(サステナブル・ブランド)国際会議で、桑名市城南地区の卓球珈琲が報告されました。卓球珈琲とは、卓球と珈琲により地域住民の心身の健康を高める活動で、桑名市、桑名市総合医療センター、朝日エル、ネスレ日本などの共催です。

会議では、伊藤徳宇桑名市長、竹田寛理事長、糖尿病専門の堀田康弘医師、長谷川恭子管理栄養士らがシンポジストを務めました。2019年3月から昨年未までの間、参加者は20人を超え、卓球により高齢者でも体脂肪の減少により体重が低下すること、運動前後の血糖値の計測が生活改善に役立つことが示され、また全員、気分が高揚し生活に張りができたとの報告もされました。

卓球珈琲は、高齢化の進む地域社会を活性化する上で有用と期待されます。



Gallery ギャラリー } 絵画等がたくさん飾られているのはご存知ですか？

院内には、寄贈いただいた絵画などがたくさん飾られています。Galleryでは、竹田理事長による作品紹介をシリーズで掲載しています。いろいろな作品がありますので、来院の際にはぜひ本物を探して、お楽しみください。



ポール・アイズピリー サントロペの入江 油彩 20号

展示場所:入院棟3階廊下

ポール・アイズピリー(Paul AIZPIRI)は、1919年パリの生まれ。父を彫刻家に持ったアイズピリーは、1936年パリ国立美術学校へ進学します。第2次世界大戦で徴兵されドイツ軍の捕虜となりますが脱走して帰国、その後具象絵画の修練に励み、1945年パリの「青年絵画展」の創立会員となり、翌年の絵画展で3等賞となって新人画家としてデビューします。1951年にはヴェニス・ビエンナーレでプリ・ナショナル大賞を受賞して、フランス画壇に確固たる地位を築きました。日本の国際形象展などにも毎回出品して高い評価を受け、日本でも人気の高い画家です。2016年老衰のため96歳で死去しました。サントロペはフランス南部の海岸に面する小さな町で、芸術家たちの夏のリゾート地として有名で、アイズピリーもここを舞台にした風景画を数多く描いています。「サントロペの入江」では、左右に位置する大きな樹の間からサントロペの町を望むような構図となっています。画面は濃い青と黒を基本とし、その中央下に、極端に単純化され、白や明るい色調で描かれた町並が、鮮やかに浮かび上がります。

田村孝之助は、1903(明治36)年大阪市に生まれ、1920年上京して太平洋画会研究所に学びますが、翌年大阪へ戻り小出橋重に師事、小出らが創立した信濃橋洋画研究所で学びます。1926年第7回中央美術展に出品して中央画界にデビュー、昭和に入り二科展へ出品して奨励賞を受賞し二科会員に推されます。戦後は宮本三郎らとともに二紀会を結成、1974年二紀会理事長に就任、その後、日本芸術院会員、文化功労者として顕彰されました。1986年、82歳で他界しました。カンヌの港に停泊するたくさんのヨットや遠景の街並みを具象的に描いた作品です。青い空と海、画面中央を占めるヨットの大きな赤い帆、立ち並ぶヨットの黄色い帆柱など、原色を効果的に組み合わせ、ヨットの停泊する港の賑わいを色鮮やかに描いています。



田村孝之助 カンヌ港 油彩 10号
展示場所:外来棟3階廊下

職員新型コロナワクチン接種開始

3月11日より医療従事者を対象とした新型コロナワクチンの予防接種が開始されました。

竹田理事長をはじめ、初日は40人の職員が接種を行いました。今後もワクチンの供給量に応じて、順次接種を行っていきます。

一日も早く全国民の接種が終わり、終息する日が迎えられることを願って、医療に貢献してまいります。





2021年 春

新しい仲間が加わりました！



研修医

看護師



コメディカル
・
事務



一緒に働きませんか？

STAFF募集中

募集職種 助産師・薬剤師・介護福祉士・看護助手など。

【お問い合わせ先】 桑名市総合医療センター 総務課 TEL:0594-22-2015



詳細については
WEBをご覧ください